

序

Preface

本学の研究活動一覧も今回で第27輯の発刊を迎え、平成15年度の1年間の研究活動の成果が報告されます。この研究活動一覧は、他部局の研究情報を知ることはもとより学内に競争的環境を生み出し、研究の活性化に貢献してきました。また研究成果を社会に還元することへの足掛かりとし、地域連携、地域貢献への一歩に繋がることと思います。

本学も国立大学として開学から28年を経て成熟期に達しており、多くの研究者・学生を育て上げて来ています。昨年は大学院医学系研究科医科学専攻（修士課程）、医学部には救急・災害医学講座の新設、大学附属病院総合診療部の開設もあり教育研究そして診療もますます充実して来ています。また平成16年度より医学系研究科に認知・情動脳科学専攻（独立専攻）や大学附属病院に神経内科の設置が認められ、教育研究、診療の発展に大きく寄与することと思います。

平成16年4月より、国立大学法人富山医科薬科大学となりますが、平成16年度文部科学省予算も一般会計が6兆599億2500万円で前年比4.1%の減となり、益々教育研究への予算配分が厳しい状況を迎えることとなります。教育研究を活性化させるためにも、外部資金の調達が各大学での努力目標となります。本学の平成15年度科学研究費採択件数は116件（3億1千万円）で、昨年度の採択件数117件（2億8千万円）より3千万円増加しております。また平成16年度申請件数も新規318件、継続69件で、申請率が104.3%となっており、採択件数、資金獲得の増額を期待しております。

さらに、文部科学省は世界に通用する大学院博士課程の研究拠点に資金を重点配分する「21世紀COEプログラム」の来年度公募で、「革新的な学術分野」のテーマで33億円の予算を計上しており、本学としても昨年「学術、複合、新領域」での「東洋の知に立脚した個の医療の創生」（拠点リーダー：寺澤捷年(副学長))の採択同様、より多くの外部資金の獲得を願う所存であります。

今後益々、地域に開かれた大学、特色ある大学として本学研究者が更なる意気込みで研究の質的向上に当たられることを切望いたします。

学 長 高 久 晃

President Akira Takaku